

# センター試験 数学Ⅱ・数学B (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：4題選択				
難易度の変化（対昨年比）	○ 難化	● やや難化	○ ほぼ同じ	○ やや易化	○ 易化
問題の分量（対昨年比）	● 多い		○ ほぼ同じ	○ 少ない	
出題分野の変化	○ あり	● なし			
出題形式の変化	○ あり	● なし			
新傾向の問題	○ あり	● なし			
<p>総評                  昨年と比較して、難易度はやや難化し、分量もやや増えた。出題の形式は例年通り。第1問〔2〕は計算量が多いので、時間を取られた受験生が多かったかもしれない。第4問は図を描かず計算のみで押し切ろうとする受験生にとっては解きにくかっただろう。難易度や分量により、後回しにする問題を見る目を養うのも大切である。</p>					

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	〔1〕 指数・対数 〔2〕 三角関数	30点	〔1〕 対数不等式に関する基本問題である。 〔2〕 内容は標準問題であるが、計算量が多い。第1問目ではあるが、時間が掛かりそうなら後回しにするのも1つの手である。
第2問	微分法・積分法	30点	基本的な問題であるので、誘導に乗って解答を進めることができれば、容易に解答できる。(3)は図の対称性に気付けば、面積計算を減らすことができる。
第3問	数列	20点	計算量も多くなく、漸化式の解き方が丁寧に誘導してあるので、計算をするだけの標準的な問題である。
第4問	ベクトル	20点	点が多く登場するので、計算だけで押し通してしまうと解答に時間が掛かるだろうが、空間内に直方体を描いて図形をイメージすれば、後半の内積計算はやりやすくなる。
第5問	統計	20点	省略
第6問	数値計算とコンピュータ	20点	省略